

める。下部のヤブがなければ、小さいが楽しい沢である。

一・二〇、沢は左右に分かれる。水量は右沢の方が多いが地図上から左沢に入る。少々遡って水がかれ、ヤブこぎになる。

一五分程で尾根に出る。宍戸君が木に登り、現在地点を確認し、渋川にむかってヤブをこぎながらの下降に移る。  
(記・和)

(タイム)

大沢七・四五―海上沢出合八・一五―尾根一・二五  
―渋川一・二〇

## 長根沢右俣

一九八〇年九月七日  
和

◆天気(曇のち雨)

峠駅から歩いて沢に入る。八時一五分遡行開始。水は割合と冷たい。左俣分岐に九時三〇分到着。比較的早いペースで来た。右俣と左俣は水量比がほぼ等しい。

入口に大岩が立ちふさがっている右俣にルートをとる。岩質は柔らかい泥岩といった感じである。三〇分程

歩くとかなり大規模な崩壊地があった。ここより一〇分

位歩くと待望の滝である。四分、三分、三分と連続しているが、わけなく直登できた。更に二〇分程歩くと一〇分程のナメになった。

一〇時四五分、左岸からの支流が合流する所で昼食。天候のかげんで、長居をしていると体温を奪われて寒くなる。早々に出発。

F4分、F5ナメ状の滝(三分)を越える。一二

時〇五分、沢が二分し右に進路をとる。一〇分程で水が涸れた。  
(記・和)

(タイム)

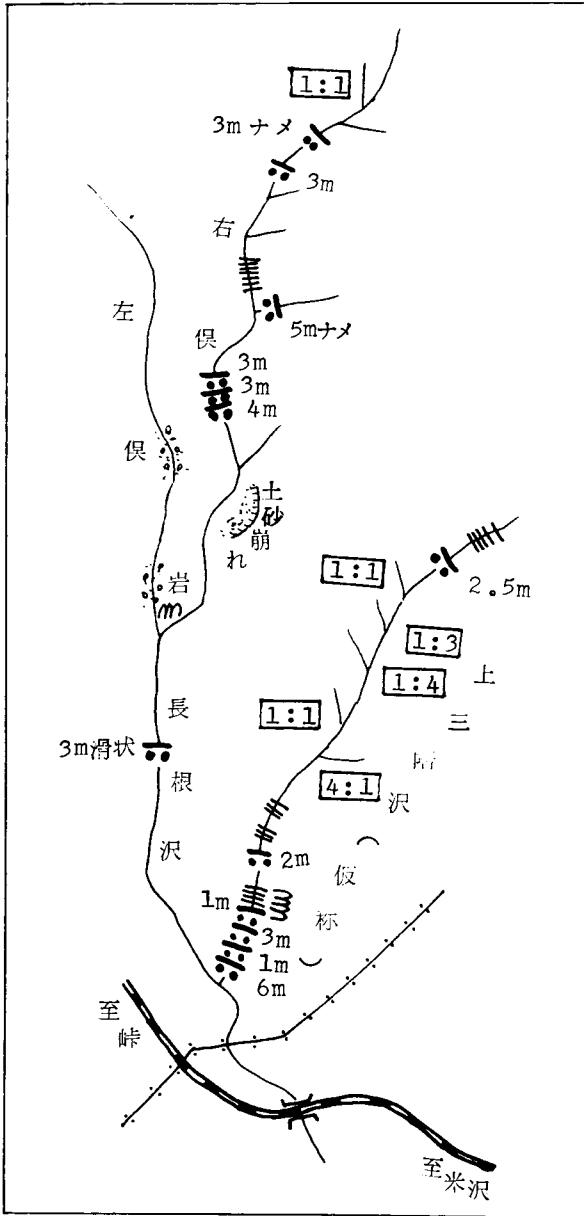
峠七・二〇―出合八・一五―二俣九・三〇―終了一・二五

## 長根沢左俣

一九七八年七月二十三日  
和

◆天気(晴)

峠駅から出合まで線路沿いに歩く。碎石の角がうすい。地下足袋の底からまともにくいこんで、とても痛い。出



長根沢，上三階沢（作図：産）

合まで約四〇分。  
 ワラジを身に付け九時一〇分廻行開始。沢は滑沢で水はきれいであった。一五分位行くと支流にぶつかる。支流には約六坪の滝がかかっていたが、本流には滝はない。浅瀬にはイワナが泳いでおり、三匹捕獲してビニール袋

に入れた。  
 一〇時四〇分二俣を通過。これより約一時間廻行して昼食とする。ここまでは傾斜もゆるやかで滝らしいものは見当らなかった。またここからは水量も極端に少なくな

更に一時間程進むと水はなくなり涸沢となる。そして、  
一三時一〇分ヤブこぎに入る。傾斜はきつくなつた。二  
〇分程で梅森から続く尾根上の廃道に出た。廃道ではあ  
るが割合とはつきりした踏跡がついていて、二時間三〇  
分程の下りで峠駅へつく。

(記・)

[タイム]

峠駅八・一〇―出合九・一〇―二俣一〇・四〇―沢終  
了一三・二〇―稜線廃道一四・〇〇―峠駅一六・三〇

## 上三階沢 (仮称)

一九八〇年九月十五日

◆天気 (快晴)

私達、これから長根沢の支流、上三階沢 (仮称) を登  
り、三階平の西を流れる沢を下る予定です。目指すは八  
二二のピークであり、この二つの沢はそこを源流とし  
て、羽黒川に三階平の東と西を流れて合流するのです。

私達は峠駅より奥羽本線を横切り、線路づたいに米沢  
方面へ進む。線路の上を歩くのは妙な気分である。長根  
沢の入口を見つける。沢の音を間近にきく。送電線に注



上三階沢 (仮称) 出合

意しながら沢へ入る。

沢を少し登ると上三階沢の出合です。今日は右へ右へ  
行けばまちがいないはずですが、五の滝がかかっています。  
まん中を登れないことはないのだが、私の経験の浅  
さを考えてくれたのか、半沢さんは右側にルートをと  
りました。

この先は一〇二の滝ばかり。水はさほど冷たくもあ  
りません。前日雨が降ったのだろう。ところどころにか  
れ草がたまっている。歩きにくい。木々がせまってきた、  
ヤブこぎのようになつた。